

大阪府知事、大阪市長の辞職と知事・市長選挙の前倒し実施について

立憲民主党大阪府連合
代 表 辻元 清美

いわゆる「大阪都構想」をめぐる大都市制度（特別区設置）協議会の取り扱いをめぐり、本日 3 月 8 日、大阪維新の会の松井一郎大阪府知事と吉村洋文大阪市長は、ともに任期途中で辞職し、それぞれ入れ替わって市長選、知事選に挑む「たすきがけ選挙」を行うとした。

そもそも、「大阪都構想」については 2015 年の住民投票ですでに否決されていることから、知事・市長は大阪市民のこの民意を尊重すべきである。にもかかわらず、民意をないがしろにした松井知事・吉村市長によって進められた協定書案は、すでに否決された協定書と変わらない。このような協定書案で住民投票を実施しようとする姿勢は未練がましく、まさに議会軽視であり、政治の私物化である。また法定協議会の運営が思い通りに進まないことを理由に民意を問うなどとするのは、首長としての責任を放棄するもので、身を切る改革どころか、自らの保身のためだけに職責を投げ出す無責任な行為であり、今回の選挙は「クロス選挙」でも「出直し選挙」でもなく、まさに「投げ出し選挙」である。

立憲民主党は今回、統一地方選挙に初挑戦する。大きく躍進することによって、安定し、多様な価値観が息づく大阪をつくっていく一翼を担っていきたい。何より「大阪都構想」は「大阪市」を解体してなくすことに他ならない。立憲民主党は、議会を通して示された民意を踏みにじる知事・市長のやり方を強く批判するとともに、私たちのまち大阪市を守るために維新政治と対峙していく。